

animato

animato（アニマート）とは、演奏記号に使われる言葉で、「生き生きとした」「活気のある」「魂のある」などの意味をもちます。

冬
16号

新しい未来のつくりかた



HIKARIの壁に並べられた鉛（かなな）。
これを使って、さまざまな家具が生み出される。
(最終ページに続く)

優しさの連鎖が 未来をつくる

クルミドコーヒー 店主 影山 知明さん

かげやま ともあき

「既存システムが持つ力学への疑問」 「既存システムが始めたわけ」

大学を出て大企業向けの経営コンサルタントをした後に、ベンチャーキャピタルと呼ばれる、投資ファンドの仕事に転職しました。そこで、なんでこうなってしまった。その中で、なんでもうかんとしたのは、単純化していくと「思いに忠実にやれる仕事で、ワクワクするけど、あまり儲かりそうにない事業計画A」と、「すごく儲かるんだけど、自分にうそをつかないといけなくて、ワクワクしない事業計画B」がある時に、投資ファンの担当者の僕としては、Bを勧めないと

いけないとということ。経営者も本当ならAを選びたいという気持ちがあるかもしれないし、その会社にお金を貸している銀行

行も、その先にいる預金者である皆さんも個人としてはそう思うかもしれない。けれど、皆さんにはそうした選択肢は提示されず「預けた額以上のお金で返す」という契約だけがあるわけです。その契約が数珠つなぎになり、気がつくとBを選択するという判断が行われている。つまり、「売上を伸ばす」ということに忠実になると、「既存のシステムが持っている力学」によって、個人として目指しているわけではない世の中が作られていくことがあると気づいたのです。

「それに代わるシステムへの挑戦」

その時に思い起こしたのがミヒヤエル・エンデの「はてしない物語」です。「ファンタージェン」と言う想像の国・夢の国がどう

んどん失われていく様子が描かれていて、その対義語が「虚無（nothing）」でした。それが「悪」でないことが印象的です。目的に沿って働くことに忠実になるあまり人は考えなくなり、その人が内に秘める想像力や夢はどんどん収縮されていると言えないと考えました。

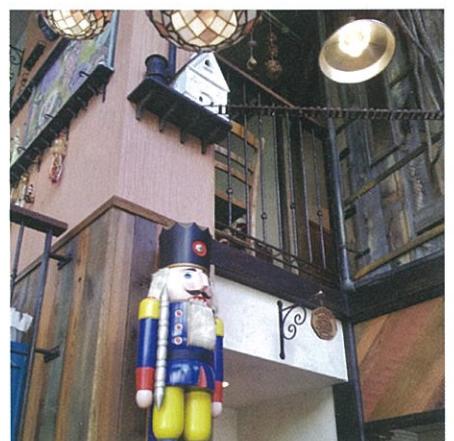
このシステムに乗っているかぎりは、個人としてどれだけ頑張っても、その大きなシステムの力学にはなかなか対抗できない

いと感じるようになって以来、それに代わるシステムを作れたらと思ったし、挑戦してみたいなど思えたのです。

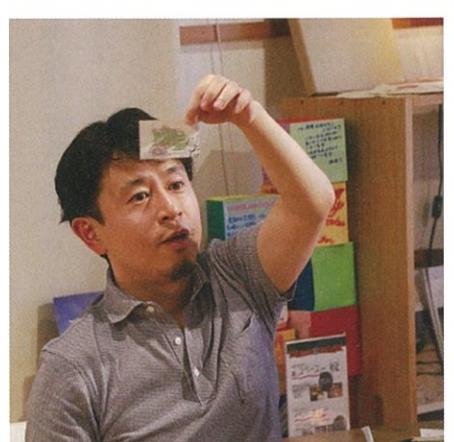
「人を手段化しないシステム」

売上や利益を最大化しようと思うと、「できるだけ少ない労力でできるだけ多くのものを得ようとする」選択を積み重ねないといけなくなる。そうすると、お客様の力学にはなかなか対抗できない

さんは売上のための手段になっていくし、スタッフに支払う給料もできるだけ少ない方がいいということになる。



西国分寺駅近くにあるクルミドコーヒー。
大きなくみ割り人形が出迎えてくれる。
クルミドコーヒー <http://kurumed.jp/>



くしみ出してきちゃいますね。そしてこうした思考パターンは企業だけでなく、NPOや病院、学校などでも同じなのでないでしょうか。

あらゆるところで、人の手段化が起っているんじゃないかな。だからクルミドコーヒーを始めたときに、人を目的としたお店ができはしないかと考えました。お客さんが来たときよりも元気になって帰つ

てくれる。お客さんを利用するんじゃなく支援するんだと思うようになった。不思議なもので、僕らがテイクしてやろうと思つて接すると、お客さんもできるだけ安く、多くのものを持って帰ろうと思う。お客さんの消費者マインドを高めてしまつ。

反対に、僕たちがギブの気持ちで接する、お客の方でも同じように接す

まちづくりを考えたときに、何か特別



なんだか最近もやもやする。。。今の世の中の様々な場面で。

「生きづらさ」も、誰かの特別なことではなく、みんながそれぞれ抱えているみたい。

どうしたらこの状況を変えられる?

結局は、それぞれの持つ「優しさ」を少しずつでも連鎖させていくしかないのかな?

そんなことを考えながら、そうしたことへのヒントになりそうな取組をもう7年も続けている、

クルミドコーヒーの店主影山知明さんにお話をいただきました。



大学を出て大企業向けの経営コンサルタントをした後に、ベンチャーキャピタルと呼ばれる、投資ファンドの仕事に転職しました。そこで、なんでもうかんとしたのは、単純化していくと「思いに忠実にやれる仕事で、ワクワクするけど、あまり儲かりそうにない事業計画A」と、「すごく儲かるんだけど、自分にうそをつかないといけなくて、ワクワクしない事業計画B」がある時に、投資ファンの担当者の僕としては、Bを勧めないと

いけないとということ。経営者も本当ならAを選びたいという気持ちがあるかもしれないし、その会社にお金を貸している銀

行も、その先にいる預金者である皆さんも個人としてはそう思うかもしれない。けれど、皆さんにはそうした選択肢は提示されず「預けた額以上のお金で返す」という契約だけがあるわけです。その契約が数珠つなぎになり、気がつくとBを選択するという判断が行われている。つまり、「売上を伸ばす」ということに忠実になると、「既存のシステムが持っている力学」によって、個人として目指しているわけではない世の中が作られていくことがあると気づいたのです。

「それに代わるシステムへの挑戦」

その時に思い起こしたのがミヒヤエル・エンデの「はてしない物語」です。「ファンタージェン」と言う想像の国・夢の国がどう

え方が友人関係や家庭や地域社会にもへ

なハードをつくらなければいけないとか、特別なソフトをやらなくてはいけないとかではなく、今、皆さんに行っている仕事の質を変え、長い時間をかけて受け手との関係を育てることが、長い目で見るとまちの景色をえていくんじゃないかなと思っています。

たくさんのファンタジーを創ろう

最近感じているのは、「社会を変えよう」という言葉がありますが、自分の感覚としては、もう、社会をえていたら間に合わないんじやないかということ。もう作ったほうがいいんじやないかと。今思い描いているのが、西国分寺が日本の外れ値になればいいなということです。なぜか西国分寺だけいつも違う、というまちに育つていったら、ああ、そういうやり方もあるんだって、世の中に示せるんじやないかと思うんです。どういう外れ値になつたらいいかというイメージを思い描くのがファンタジーだと思います。

こうなつたらいいなあという創造的な夢がまちの中で断片的に生まれ、実現していくことの方が、鳥の目で計画的に作ったまちよりもいいまちになると思っています。今とは違う、別の社会の作り方を実証できたらなと思っています。

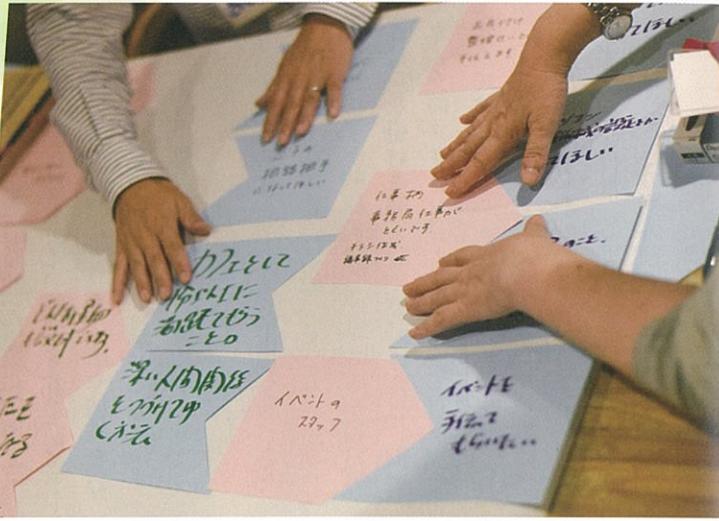
影山さんのお話を聞いた後は、参加者の皆さんとワークを行いました。

最初のお題は、「大事にしたい人を考えてみよう」。影山さんは著書『ゆっくり、いそげ』の中で「目の前の人を大事にする」と書かれていますが、参加者の皆さんにとって『大事にしたい人』はどんな人たちなのでしょうか。

参加者の方からは、「家族」「友人」「ペット」「仕事仲間」「趣味仲間」といった身近な人を書く方がいる一方、「亡くなつた友」「亡くなつた両親」など、今は亡き人のことを書いた方もいました。

2つ目のお題は、「それぞれの『GIVE YOU』と『GIVE ME』を出し合おう」。『GIVE YOU』は、「これならやつてあげられるよ、得意だよ」というものを、「GIVE ME」は、「コレは苦手だから、誰かお願ひ！」というものを出し合おうというワークです。

「あちこちのコミュニティカフェの様子、お伝えしたいです」、「カフェのしくみが知りたい」、「案内やPOPの作成（ができます）」、「チラシの作成スキルやデザイン感覚（が欲しい）」、「場所を提供できる」、「気軽に使える活動拠点（が欲しい）」などなど、参加者21名で行つたワークでしたが、たくさんのマッチングができました。



最後は、一品持ち寄り交流会。参加者がみんなでシェアしたい自慢の食べ物や飲み物がたくさん並び、楽しい交流の時間となりました。



animoto読者参加型イベント 『優しさの連鎖が未来をつくる』

日時：9月27日(日) 16:00～20:00

会場：港南台タウンカフェ

参加者：21名

- ・ 影山知明さんのお話
- ・ 参加者ワーク
 - ①それぞれの「大事にしたい人」を考えてみよう
 - ②「GIVE YOU」「GIVE ME」を出し合おう
- ・ 一品持ち寄り交流会

認知症の人も誰でも集える 「えんがわ」 ～こまちカフェ～

「えんがわ」は、戸塚駅西口から歩いて7分ほどの所にある「こまちカフェ」で月2回開かれている認知症カフェ。「このまちで子育てをしてよかつた」と思えるままをつくりたいと始めたカフェだけあって、普段は小さい子どもとそのお母さんでにぎわうこまちカフェの中で異色の取組となっています。

取材にお邪魔した日は、常連さんがお休みで、認知症の診断を受けている高齢者の方とその息子さんが参加者。そこにこまちカフェのボランティアと「ハグ・ザ・ラ



イフ～生命を抱きしめよう～チーム」※1と戸塚区の認知症キャラバン・メイト※2がスタッフとして参加しています。

認知症のご本人が居場所として集える場、認知症の予防にもなるおしゃべりが気軽にできる場、介護をしている方同士が悩みを相談できる場など、様々な立場の方たちが集える場として始まりました。認知症になつてもできることがあり、社会でまだ役立ちたいという気持ちがあります。

そうした方に活躍の場を作りたいという

未来へつながる 夢の一片



一番左が理事長の高崎さん

NPO法人 ぶかぶか



パンが食べ放題のランチタイムには、ご近所さんで大賑わい

<http://pukapuka-pan.xsrv.jp/>
絵本から飛び出したような可愛いお店「カフェベーカリーぶかぶか」では、障がいのある人たちが元気よく働いている。その他に、「ぶかぶかカフェ」、「おひさまの台所」(お惣菜屋)、「アート屋わんど」も運営。

ワンピース 夢の一片

来場者289名。公演終了後、子どもたちの笑顔、親御さんの嬉しそうな表情、全盲の男の子が積極的にピアニストや役者さんに声を掛ける姿を見た高崎さんは、涙でカメラのファインダーがぼやけてしまったそうです。

「今回オペラをプレゼントした地域の子どもたちは未来そのもの」と高崎さん。オペラは日常とは全く違う体験ができる、ひとときの夢の世界。その夢の世界を

設立当初から事業が軌道に乗った後、地域の子どもたちにオペラをプレゼントしたいという思いがありました。

心に決めていた作品は、パンをつくるロボットが主人公の子ども向けオペラ「ロボットのロ」。親子一緒に楽しめ、純粋にワクワクし、未来に希望を持てる作品です。その「ロボットのロ」が再演されると聞き、今しかない!と思い、その場で公演を依頼したそうです。1回の費用は80万円と高額でしたが、この公演を実現するため「子どもたちにオペラを・ゆめ基金」を設立し、地域の方々に呼びかけました。

プレゼントにオペラを選んだ理由は、前職の養護学校の教員時代、授業の中でお父に取り組んだところ、練習するたびに子ども達の表情が明るくなり、歌や演技を心から楽しむ姿が強く印象に残っており、オペラが持つ夢の力に驚いた経験からです。



ゆめ基金で実現した子ども向けのオペラ「ロボットのロ」



オペラ終了後の握手会の様子

地域の大人たちで、 子どもたちにオペラをプレゼント 「子どもたちにオペラを・ゆめ基金」

NPO法人ぶかぶか理事長の高崎さんは、設立当初から事業が軌道に乗った後、地域の子どもたちにオペラをプレゼントしたいという思いがありました。

子どもたちにプレゼントしようと、地域の大人たちが一生懸命になること、そんな大人たちのいるまちはきっとワクワクすることがいっぱい生まれる気がします。地域の子どもたちのために、地域の大人たちが汗を流す。楽しい、ワクワクするようなまち、未来に希望の持てるまちは、こういうところから始まると思うのです。





取材したこの日は、取材に参加したお母さんと一緒に来た子どもたちが、本を読んでいた。

東寺尾図書館



問合せ先: 045-581-8721

現在、本の貸し出しは会員のみ。主に地域の活動場所としてヨガや太極拳、囲碁、習字、学習塾のほか、バザーやお祭りなどに使われている。



緑に囲まれた建物。

「人と人とのつながりが故郷」、「まちの風景は変わってもそれは変わらない」。その言葉通り、これからも愛着のある建物を残していくたいし、人と人とのつながりを大事にした活動を続けていきたいと考えています。そのため、どうやって次世代にバトンを渡していくべきなのか、また今の子どもたちが夢を持ち続けるためには、どんな居場所が必要なのか、考えを巡らせていました。

67年間途切れない思い

「東寺尾図書館」

民設民営という珍しい図書館が誕生したのは、1949年のこと。ここ東寺尾は、尾根づたいの畑が多い地域でしたが、戦後、多くのサラリーマン世帯が引っ越してきました。生活が大変な時期でしたのが、少しでも良い環境で子どもを育てたいという思いで、みんなでお金を出し合い、企業から土地を借り、GHQから郵便局だった建物を払い下げてもらい移築して、作りました。

子どもを背負った母親たちがバケツで石を運んでは、地盤固めをしたそうです。完成後も、保護者が運営に関わり、文庫活動の他、学習教室、バレエ教室、母親向けの料理講習会などをを行い、その姿を見て育った子どもたちが、運営を引き継いでいます。

とはいえる、その子どもたちも今ではシニア世代。公設の図書館もでき、建物も古く



町内会主催で10年間続いている、月1回のキッズルーム。区内各地から毎回30名ほどの親子がやってくる。

なり、子どもたちの利用も以前ほどではありません。それでも、坂の多いこの地域にとってこの施設は、自治会の行事も含め、地域の文化・福祉等諸活動の中心的存在であり、幼稚から高齢者たちまで、なくてはならない「地域の宝」だと皆さん口をそろえます。



本日の軽食。こだわりの材料と素材の味を生かした味付け。



「外の人と接することで、家とは違う表情が見ることができる」と参加者の息子さん。

「えんがわ」のプログラムは毎回様々。アロマを使ってリラックスする日もあれば、相続の基礎を座学で学ぶ日もあります。こまちカフェには様々な特技を持つ方が集まっているので、そうした方が交代で講師役を務めてくれます。毎回共通しているのはみんなで一緒にランチを食べること。おいしいランチが自慢のこまちカフェでやるなら、ぜひ一緒に食べたいねと特別に軽食を用意しています。みんなで美味しいものと一緒に食べることで、ほっこり会話を弾みます。



「えんがわ」のスタッフ



こまちカフェ

<http://comachiplus.org/cafe>

NPO法人こまちぷらすが運営するコミュニティカフェ。

「えんがわ」は、毎月第1・3火曜日の12:30-14:30に開催。(要予約)

そのほか、「きこえないママ×まちプロジェクト」や「でこぼこの会」という発達障がい児の会など、地域に住む当事者がスタッフになった活動が沢山始まっている。

思いから生まれた「えんがわ」。5年後にはカフェの中にある縁側で多世代、特に子どもたちとの交流が日常化していることを目標にしています。

※1 エフエム戸塚（コミュニティFM）が毎週火曜日に放送している、介護や医療の情報番組をきっかけとして、スポンサーとパーソナリティがチームを組み活動している。高齢になつても安心して暮らせるまちづくりを目指して、番組以外でも活動している。

※2

全国的に展開しているキャンペーン「認知症サポートキャラバン」において、認知症への理解を広めるために地域で活躍する人。

ひとりひとりの

「選択」で変わる未来

私たちの暮らしの中にも、「優しさの連鎖」につながる行動は、沢山あります。どんな未来を選ぶのか。私たちのひとつひとつの選択が、意思表示となり、結果として未来を選ぶことにつながります。

フェアトレード

生産者の生活の安定と貧困問題の改善のために、原料や製品を適正価格で購入する貿易の仕組みです。

バニラビーンズ（中区海岸通 他）
チョコレートデザイン 株式会社
<http://chocolatedesign.co.jp/>

「原産国の子どもたちに笑顔を届ける」がモットーのチョコレート工房。2015年には、売上やお客様からの寄付でガーナの子どもたちに学校をプレゼント。



ベルダ（栄区小菅ヶ谷）
ネパリ・バザーロ
<http://verda.bz>

ネパールの生産者が作った製品を販売。ネパールの子どもたちへの奨学金支援や、ネパール大地震、東日本大震災の支援も。



珈琲工場 & 百屋（旭区白根）
(株)世織書房
<http://homepage2.nifty.com/coffee-hyakuya/>

フェアトレードのコーヒー豆と地場の無・低農薬野菜、自然食品のお店。障がいのある人の働きの場ともなっている。

マイ（○○）
マイバッグやマイカップ、マイ箸など。自分のお気に入りのものを見つけて、身に付けることで、環境にやさしいだけでなく、自分自身の快適な暮らしになります。

オーガニックコットン

綿をつくるために、沢山の農薬や除草剤が使われています。地球の環境を守るために、綿農家の健康を守るために、そして何よりも、着心地の良さを実感できます。

天衣無縫（西区・港南区 ※高島屋内）
(株)新藤
<http://www.tenimuhou.jp>

NPOが行っている社会企業家支援にも協力したり、東北コットンプロジェクトにも参加。



メイド・イン・アース（自由が丘 他）
(株)チーム・オースリー
<http://www.made-in-earth.co.jp>

カンボジアの地雷原を綿畑にするNPO活動にも協力したり、被災地支援も実施。



障がいのある人たちによる 製品・サービス



HIKARI（港北区大倉山）
NPO法人 精神保健を考える会 まいんどくらぶ
<http://www.hikari-craft.com/index.html>
おもちゃから大型家具まで、木の個性を生かして、ひとつひとつ丁寧に手作りしている。

NPOに寄付

横浜地域密着型の クラウドファンディング

お金の使い道として、応援したい活動をしているNPOに寄付するという方法もあります。
インターネット経由で、応援したい団体へ寄付し、意思あるお金を未来につなげるクラウドファンディングは、専門性や時間の問題で活動には参加できないけど…
というときに活動を応援する方法になります。

FAAVO 横浜

関内イノベーションイニシアティブ
株式会社（中区北仲通）
<https://faavo.jp/yokohama>
横浜で新たに生まれる活動やプロジェクト、長年地域で愛されてきた活動を、支援・応援できるサイト



LOCAL GOOD YOKOHAMA

NPO法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ（中区相生町）
<http://yokohama.localgood.jp/>
プロジェクトに挑戦したいプレイヤーはサイト上で資金と仲間を集め、サポーターは資金や自分の技術で地域のプレイヤーの活動を支援。



障がいのある人たちによる 製品・サービス

丁寧なモノ作り、あたかな雰囲気作り、正確な作業といった、それぞれの持ち味を生かした製品やサービスを選ぶことは、障がいのある人たちへの理解と共生する社会につながります。

地域活動支援センター オフィスウイング
(西区浅間町)
NPO法人 PDDサポートセンター
グリーンフォーレスト
<http://www.officewing.jp/>
テープ起こしやデータ入力。丁寧な仕事に定評がある。

リユース食器

飲食を交えたイベント・講座の時に、何度も繰り返し使える「リユース食器」を使うことで、循環型社会につながります。

リユース食器

NPO法人 WAVE よこはま（青葉区鶴志田町）
<http://reuse-wave.sakura.ne.jp/>
リユース食器のレンタルの他、食器洗浄車でイベントに出向きお手伝いも。（青葉区内は送料無料）



公益財団法人 横浜市資源循環公社
(中区桜木町)

<http://www.shigenkousha.or.jp/>
『洗浄して返却』または『洗浄せずに返却』が選択可能。



FAAVO 横浜

関内イノベーションイニシアティブ
株式会社（中区北仲通）
<https://faavo.jp/yokohama>
横浜で新たに生まれる活動やプロジェクト、長年地域で愛されてきた活動を、支援・応援できるサイト





「地域との協働を通じて、地域社会と継続的に関係をはぐくみ、地域課題解決を担っていきたい」と考える企業が、学生による長期インターンシップ生の受入れをきっかけに、様々なアクションを起こし、地域課題の解決に向かっていくことが今回の取組です。

事業初年度は、「インターン生が参画することで、企業が地域社会に積極的にアクションを探り始め、地域と企業がその後も続く良好な関係性を築くきっかけを提供できるのではないか」、という当初抱いていた仮説を検証できました。2年目となる今年度は、この夏から5社7名のインターン生が挑戦中です。具体的には瀬谷区の五光発條株式会社さんが地域の子どもたちを対象とした工場見学を実施したり、瀬谷区地域振興課のお力添えをいただき、工場の一角にウォーキングポイントリーダーを設置し、地域のシニアの皆さんのがんばりを健康増進に貢献するほか、インターン生がフィールドワークを重ねて様々な提案をしています。

これらが一過性の取組で終わるのではなく、企業が地域社会の一員としてもっと存在感を發揮していくために継続的な関係性をどう築いていくか、という点をさらに深く考え方にしていきたいと思います。

特定非営利活動法人 ETIC.横浜プランチ

TEL 03-5784-2115 Email yokohama@etic.or.jp
HP <http://yokohama.etic.or.jp/>

編集後記 & 次号予告

「はてしない物語（ネバーエンディング・ストーリー）」の中で、勇者アトレイユは、ファンタージェンを救う旅に出ますが、「虚無」の破壊力はすさまじく・・・。

目的に沿って働くことに忠実になるあまり、パターン化した考え方や行動にいつのまにか支配されていくとしたら、私自身も「虚無」の世界に取り込まれていることになります。「わたしは、どう考えるのか」「それは、ほかの人にとってはどうか」よくよく考えを巡らせ、行動を吟味すること。想像力や夢を持ち続けること。今回も、いくつもの課題をいただきました。（SAYA）

日々の生活を考えると、何となく未来は漠然としてしまいます。しかし、一步一步の積み重ねが未来を創るのだと、今回の取材を通して改めて実感しました。成り行きに任せられるのではなく、「日々の選択」で未来は変えることができる。「まさか、こんな事になるなんて」となる前に、我々に何ができるのか。「こうしたい！」に対して、どのような選択をしたらいいのか。animate16号を作る過程は、自分自身の「日々の選択」を見直すきっかけになりました。（Hiro）

(表紙の続き)

今回のテーマは、いつも以上に漠然としたものになりました。新しくて楽しい未来は、少し奇抜かもしれないけれど、新鮮な発想から生まれるんじゃないかな。今まででもそうやって、未来をつくって来たんじゃないのか。そうした中で企画したクルミドコーヒーの影山さんを招いての読者参加型イベント。そして、自分たちの活動を少し広げて、新たな領域にアプローチしている市内の事例。また、個人としてできることとして「ひとりひとりの『選択』で変わる未来」というコーナーを作りました。

表紙に取り上げた「HIKARI」は、精神障がいのある人たちが働く作業所。ここは本格的な家具作りも行っているところで、お邪魔した日は作業場で黙々と機械で木材を切っている方、作品にオイルを塗っては、なじませるために目の細かいサンダペーパーで丁寧にこすっている方、のみを使って木材からお皿を掘り出している方と、それぞれの技量に合わせた作品作りを行っていました。あたりに木の破片を散らしながら、カン

カンと音を立て、のみでお皿を掘り出す姿は、未来を掘り出している姿のようにも見えました。作業場の壁にかかっていた沢山の鮑（かんな）もバックにある様々な形の椅子が描かれた壁紙とともに、未来を削り出すイメージにピッタリ！と写真に撮させていただきました。

私が昨年 HIKARI で購入した小さなテーブルと椅子は、1年半が経って落ち着いた色合いに変化してきました。取材にお邪魔した際に購入したオイルを塗ったところ、しっとりとした雰囲気になり、これからますます、いい風合いに変化していくのが楽しみです。ずっと長く使えるものを選ぶこと、環境に配慮した生活、作り手の生活に思いを巡らせた消費行動をと、思いながらも徹底することはなかなかできませんが、何かを買うとき選ぶ時にちょっとそのモノのむこう側に思いをはせられたなと思っています。・ひ・

次号vol.17は、「超高齢社会～介護保険のむこう側～（仮）」をテーマに3月下旬発行予定です。

横浜市 Yokohama Citizens Empowerment Center 市民活動支援センター

管理運営：認定NPO法人 市民セクターよこはま
<https://opencity.jp/yokohama/>

住所：横浜市中区桜木町1-1-56
みなとみらい21クリーンセンタービル4・5階

TEL：045-223-2666 FAX：045-223-2888

Email：daihyo@hamacen.jp

開館時間：月・土 9:00-21:00 日・祝 9:00-17:00

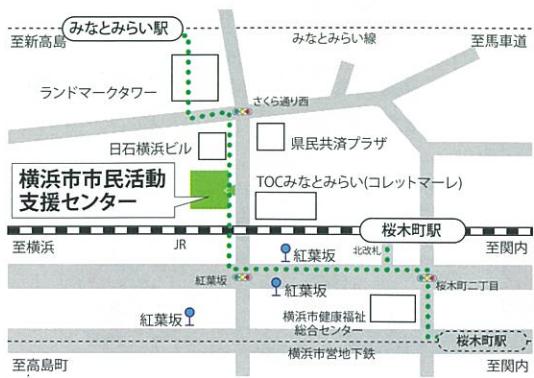
休館日：年末年始・第4日曜日（12月は第1・第4日曜日）

JR線「桜木町駅」北口 徒歩5分

市営地下鉄線「桜木町駅」徒歩7分

みなとみらい線「みなとみらい駅」徒歩10分

発行日：2015年11月30日 デザイン・編集：(株)イータウン



毎月メールマガジンを配信中。

メルマガ ハマセン

検索



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリント認定工場で印刷しています。